

不適切な保育を防ぐ

この事例
どう思いますか？

汚れものを減らせるし、着替えの回数も減らせると思うんだけど…。



A「うちの園では、給食のときに乳児はズボンを脱がせて食事をしています。」

B「なぜ、ズボンを脱がせるのですか？」

A「食べこぼして、服が汚れることを防ぐためです。」

B「あなたは食事をするときに、ズボンやスカートを脱ぎますか？」

A「…いいえ。」

B「子どもも同じですよね!？」

子どもだからといって、おかしいことをしていませんか？



大人にやらせたら変だ!…と思うことは子どもにとって『不適切』なことです。

そうならない
ために…。



子ども主体の保育にシフトしよう!



子どもの声をきちんと聴こう。

不適切保育≒虐待

→ 子どもの権利が
守られていない。

保育の基本

保育所保育指針より



生命の保持

- ①一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。
- ②一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。
- ③一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする。
- ④一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。



情緒の安定

- ①一人一人の子どもが、安定感をもって過ごせるようにする。
- ②一人一人の子どもが、自分の気持ち安心して表すことができるようにする。
- ③一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。
- ④一人一人の子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする。

保育のバロメータや、職員の振り返りとして活用していく。

安全な保育をするために

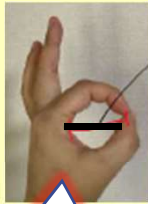
保育中もっとも危険な場面は...

くう・ねる・みずあそび + 園外活動・お散歩など

くう(食べる)

◆『食べること=危険』という共通認識をもつ

→ 45×32mm程度の大きさで、のどに詰まりやすい形状の食べ物や玩具に注意!!



- 窒息しやすいもの
- ・乾いた豆、ナッツ類 (水で膨らむ)
 - ・飴・キャンディー・チーズ
 - ・プチトマト・リンゴ
 - ・ぶどう(粒の大きいもの)
 - ・スーパーボール
 - ・小さなおもちゃ類

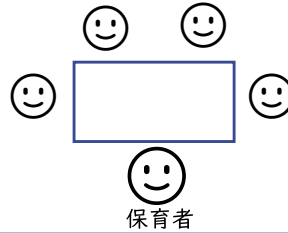
など。

自分の手をはかりにして、食べ物や玩具の大きさをみる習慣を作る。

◆保護者と共に、子どもの嚥下の発達、歯の生え方、食べられるものを把握する

◆子どもがきちんと飲み込んでいるか確認する

手元・口元が見える配置



子どもが保育者の横にすわると、チョークサイン(窒息した時にとっさに出るSOSのサイン)が見えない

ねる(睡眠)

◆乳児の睡眠中の死亡を避けるために

- ① うつぶせ寝にしない
- ② 明るい部屋で寝かせる
- ③ 確実に呼吸をチェックする
- ④ 寝具などが顔にかからないようにする

Q.なぜ、明るい部屋で午睡をするの?



A.午睡中は子どもの体調が急変することがあります。体調の急変を見逃さないために、表情が見えるような明るさが必要だからです。



みずあそび

◆10cmの深さでも、子どもはおぼれる

◆おぼれるときは、静かにおぼれる!

◆必ず監視する人を置く

▶自由に遊んでいるときは要注意!!

プールの中でも熱中症になります。

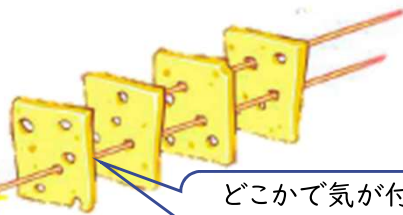


見失い+αがあると重大事故につながる。

穴をふさぐような組織作り

スイスチーズモデル

1枚のチーズは1人の保育者。チーズの穴が偶然に重なり合うと重大事故になる。枚数を重ねていき、穴の位置を少しずらすことができれば、重大事故を防ぐことができる。



重大事故

どこかで気が付いていたら、矢印は通らなかった。

研修生の報告書より

様々な重大事故が発生しているが、そこには見失い+αが関係していることを学び、人数確認の重要性を改めて実感した。園のリスクは広範囲で多岐にわたるが、子ども主体の保育が様々なリスク回避に対応することにもつながると学んだ。子どもとの約束やルールを不用意に増やさず、子どもの心と身体を安全に守るための環境づくりをしていきたい。

保育は人間同士の関わりの中で行なわれるもの。

→ 保育の重大事故は、人と人のつながりによって防ぐしかない!!